

2011年春闘勝利!

2011春闘勝利!



国労仙総支部春闘総決起集会開催

(3月2日)



各分会の決意表明に拍手で支持

東北自動車支部岩崎さん報告



出身は青森で、仙台に来たのは今年で2年目になる。私は95年6月に青森で一年、その後、契約社員で入社し、15年間の契約社員で平成20年に転職の条件で社員になり、平成21年3月1日付で仙台市七北田の市営バスで働いていて、そこでは一年間は東労組に入っていたが、東労組で

は、ものを言っても全く伝わらないこと等があり、これではだめだと思い、先輩に国労に移りたいと電話し、自動車支部の役員と話をし、国労に入る決意を固め、昨年の1月、国労加入の際、東労組から事情聴取という事で、東労組の地本をはじめとした役員11人に囲まれ、一人で事情聴取を受けたが、それでも決意は変わらず辞めた。今、国労に入ってから良かったと思う。これから頑張りていく。

今春闘では、春闘相場をりードすると言われる自動車等の労働組合が早々とベア要求を見送る等、厳しい社会情勢を反映し、労働者側にとって苦しい状況に追い込まれている。

日本の雇用情勢は、「新自由主義」「構造改革路線」による雇用破壊と、長期賃上げ抑制による消費の低迷、輸出依存による内需の落ち込み、そして円高もあいまって回復の兆しが見られていない。

総務省等の示す各種調査の結果

庄司委員長挨拶

果では、完全失業率は5%、中でも24歳以下の完全失業率は8%と高い水準を維持し続け、大卒・高校卒業予定者の内定率も大変厳しく、宮城県の高卒の就職希望者の内定率は、2月時点で80%余りで、約2割の希望者が卒業後、決まらないまま社会に放り出される。

また雇用形態では、正規労働者は6年連続減少、前年比7万人の減。一方で非正規労働者数は、32万人増えている状況で、ワーキングプアと呼ばれる年収二〇〇万円以下の給与所得者の数は4年連続で一〇〇万人を

3月2日(水)に利府コミュニティセンターにおいて支部春闘総決起集会が開催された。この集会には支部組合員約一〇〇名(エルダー組合員の大沼さん、佐藤さんも参加)地方本部から橋本委員長、五十嵐書記長が参加、そして、昨年に東北バスにおいて加入した岩崎さんを招き、これまでの経過並びに加入の際の他労組の動向等の報告を行っていた。支部庄司委員長は「要求の実現は闘いなくてはあり得ないし、それには困難がつきもの。しかし、安心して働き続けるためのために粘り強く闘っていきましょう」と挨拶を行いました。また、地本・五十嵐書記長からJR不採用問題の経過、「人事・賃金制度の見直しについて団交内容」等の報告を受け、各分会代表の決意表明、集会の最後は庄司委員長の団結ガソバローで春闘勝利に向けて団結して闘うこと意思統一を行い、尚、集会終了後に岩崎さんを囲んで懇親会を開催、団結を固めました。

こえ、一一〇〇万人に達した。マスコミの報道によれば、三〇〇兆円ともいわれる大企業の内部留保金があるとされ、長期にわたる賃上げ抑制が、勤労国民の所得を一貫して低下させている。多くの有識者が述べているように、内需拡大の最大の力ソフル剤は、賃金引き上げであり、また一九九〇年中期以降の労働法制改悪が、大量の非正規労働者を生み出し、法人税減税等、企業加護の政治の功罪は極めて重いと指摘している。

こうした現状を打開するため、横断的な労働組合の団結が必要。労働組合の奮闘が求められている春闘再構築の意義と課題をしっかりと認識し、闘う春闘が求められている。

国労が取り組む3月4日・5日の大衆行動は、闘いの拡大と実践を図る重要な闘い。今総決起集会を契機に、各種行動の成功にむけた全組合員の奮闘を。そして大衆行動と並ぶ二〇一春闘の闘いの柱として、自らの職場の運動の強化し、支部闘争委員会の開催し、一人一要求の取り組みや現場長要請行動等の一連の取り組みが主体となる意思統一を進めてきた。

私たちは、要求の実現は闘いなくしてあり得ない。そして、それには困難がつきもの。しかし、安心して働き続けられる職場をつくるために粘り強く闘っていく。

最後に、4月に地方自治体が行われるが、支部として国労議員団及び革新勢力の拡大に向け、国労宮城県協議会と連携し取り組んでいく。

各分会代表挨拶



車体分会小松分会長
 今回の業務改善では、車体一科においては組の体制変更や室内解装の委託等が提案された。分会として大きな変革に対し盤石の体制をつくっていく。今、八百長という言葉が飛び交っているが、会社に八百長をさせないよう取り組んでいく。

組立分会桜井分会長
 私たちの職場でも今年も業務改善の提案で部外委託が提案された。分会として、集会を開催し議論を重ね要求をまとめた。分会として、人事・新賃金制度の見直しをはじめとした国労の諸要求との要求と春闘を結合させ、今春闘皆さんと共に最後まで闘う。

台車分会森本分会長
 2月8日に運転、組立と共同で地本書記長に来てもらい、人事・新賃金制度の見直しの学習会を、2月25日には、会社施設で春闘学習会を開催した。最後まで分会組合員一丸となって今春闘を成功させていく。

運転分会横山副分会長
 少しでも私たちの労働条件改善の闘いが前進するよう、皆さんと共に最後まで闘う。



国労東北協議会

国労東北春闘総決起集会開催



一番町をデモ行進



佐藤弁護士講演



仙総支部もプラカードを先頭に



国労です。



生活できる賃金の保障を!

早朝ちらし行動

デモ行進終了後、こくろう会館において、東北三工場交流会が開催され(約40名参加)、遠く離れ中々会うことのできない仲間との交流を行いました。尚、この行動の前段、仙台駅東口と仙台支社前で早朝ちらし行動が行われました。

3月5日(金)に仙台市勾当台公園において、東北の各地から組合員約四〇〇名が結集し、二〇一一年春闘勝利、諸要求獲得に向け国労東北春闘総決起集会が開催されました。

集会は三部構成で、第一部で、瀬下東北協議会議長は主催者挨拶で、春闘情勢、安全問題と職場労働条件の改善問題、そして新しい仲間を国労に迎え入れる取り組みをと訴えました。続いて各来賓からの挨拶があり、第二部では、国労東北日本本部・高野委員長からの春闘情勢、安全問題、組織強化・JR不採用問題の早期解決等の報告を含めた主催者挨拶、東北三地本代表からの決意表明が行われました。

第三部に入り、東北労働講座として佐藤正明弁護士から「労働契約の擬装と労働者の権利」と題した講演が行われました。その後、瀬下議長の団結ガンバローで締められ、仙台市内を三隊に分かれデモ行進を行いました。